

♪ 欧州委員会が日本におけるヨーロッパの研究者ネットワーク構築を開始

<http://europa.eu/rapid/pressReleasesAction.do?reference=IP/08/945&format=HTML&aged=0&language=EN&guiLanguage=fr>

(EU プレスリリース No.945、2008 年 6 月 16 日)

http://www.deljpn.ec.europa.eu/home/news_en_newsobj2543.php

(EU ニュース No.171/2007 2007 年 11 月 29 日)

を参照

欧州委員会の Janez Potocnik 委員は、日本で研究するヨーロッパの研究者のネットワーク構築を開始する旨、2008 年 6 月 16 日にブリュッセルに於いて公表した。日本に滞在するヨーロッパの研究者でネットワーク構築を望んでいる者は、オンライン調査に於いて 74%にのぼったことが明らかになっていたため、その構築の主な目的は、研究者側のニーズに対応しており、研究者間の交流のほか、就職情報、研究支援事業情報、日欧協力情報へのアクセスが盛り込まれる内容として挙げられている。欧州委員会はすでにアメリカに ERA-Link/USA を設立しており、我が国はこれに次いで相互交流ツールを構築することとなった。構築されるネットワークは ERA-Link/Japan と命名され、欧州委員会の研究委員会(DG for Research)と欧州委員会東京代表部が支援する。

(政策的背景には、) 日本と欧州は世界の GDP の 40%を占め、互いに貿易投資の主要相手先であること、産業競争や持続的発展といった問題対策として研究とイノベーションが戦略的に重要であることを日欧ともに確信しているところといった、経済発展への期待がある。その戦略の一環として、研究者は研究者に特化した連携の便宜を得たり、就業機会を見つけたりするべき将来の財産とみなされている。

日本には、数千人単位のヨーロッパの研究者が滞在しており、世界的な研究開発の戦略的な地位を占めていることから、日本は「外国におけるヨーロッパの研究者(ERA: European Researchers Abroad)」の、アメリカに次ぐ早期対象国となったようである。

調査は 571 人の日本に滞在するヨーロッパの研究者を対象に実施された。65%は東京以外在住で、67%は滞在 5 年未満、日本語の知識が皆無の研究者は 10%で 63%が基礎または日常会話程度の日本語の知識を持つとの結果であった。彼らの中には、ヨーロッパの支援事業に関する知識を持っている者は少数で、EU の第 7 次フレームワークプログラムや European Research Area (ERA)のことを知らないものもいた。このことから、研究者自身がネットワーク構築を希望しており、ニーズが多かった。

同ネットワークは次のようなサービスを提供する：

- 1) ユーロッパの研究支援情報、就職情報、ヨーロッパ「で」のまたはヨーロッパ「と」の就業機会情報を掲載したウェブサイト
- 2) Eメールによる新情報の提供
- 3) 外国におけるヨーロッパの科学コミュニティに対する特別な関心を記事にしたニュースレターの発送（研究開発のブレークスルー、政策展開、現行の国際共同研究、会員からの情報等を含む）
- 4) 滞在国（地域）に於ける会員のネットワーク、会合、イベント情報
- 5) 就職フェアへの参加企画やヨーロッパの産業界、研究所等の想定就職先に研究者が出会えるためのフォーラムの提供
- 6) 研究者の情報交換ツールの提供

European Research Area は、外国にいるヨーロッパの研究者は、彼らがヨーロッパに戻るとしても滞在国から戻らないとしても、彼らを貴重な財産と考えている。滞在国とヨーロッパの研究協力関係を強化し得る限り、「知の獲得」や「知の損失」ではなく、「知の循環(brain circulation)」が成り立ち、以て効果的な人的パートナーシップを形成し得る。このことから、研究者連携支援は、研究者に対して、開かれた、競争的で魅力的なヨーロッパ労働市場の戦略的開発にとって重要である。

なお、先行のアメリカでのネットワークはやはり、Potocnik 欧州委員が 2006 年 6 月に公式に設置したもので、現在会員は 3500 人以上いる。

(文責 ボン研究連絡センター)